

ウズベキスタン

主要データ

| | |
|---|---|
| 国名(英名) | ウズベキスタン共和国 (Republic of Uzbekistan) |
| 面積 (km ²) | 447,400 |
| 海岸線延長 (km) | 0 |
| 人口(百万人) | 29.7 |
| 人口密度(人/km ²) | 66.5 |
| GDP(10億US\$) | 67.51 |
| 一人当りGDP(US\$) | 2,269.33 |
| 主要鉱産物：鉱石 | 銅、金、ウラン、タングステン |
| 主要鉱産物：地金 | 銅、亜鉛、金、モリブデン、テルル、セレン |
| 鉱業管轄官庁 | 国家地質鉱物資源委員会(内閣管轄) (Goscomgeology) |
| 鉱業関連政府機関 | 国家鉱量委員会(内閣管轄)、対外経済関係・投資・貿易省、経済省 |
| ロイヤルティ | なし |
| 鉱業法 | 地下資源法(1994年9月23日、最終改正2018年7月18日) |
| 外資法 | 外国投資法(1998年4月30日、最終改正2017年4月18日) 外国投資保証・保護法(1998年4月30日、最終改正2017年9月14日) 投資活動法(1998年12月24日、最終改正2014年12月9日) |
| 環境規制法 (環境影響調査制度、環境・ 排出基準の有無等) | 環境保護法(1992年12月8日、最終改正2018年4月18日) 廃棄物法(2002年4月5日、最終改正2018年4月18日) (環境影響評価制度あり) |
| 鉱業公社 (国営鉱業企業) | NGMK (Navoi Mining and Metallurgical Combinat) AGMK (Almalyk Mining-Metallurgical Complex) |
| 近年の鉱業関連問題 (資源ナショナリズム、 労働争議、環境問題等) | 特になし |
| 2017年のトピックス | <ul style="list-style-type: none"> ・ 2017年1月26日、日本・ウズベキスタン外交関係樹立25周年。 ・ 2018年2月10日より日本、イスラエル、トルコ、マレーシア、インドネシア、シンガポール、韓国の国民に対し、ウズベキスタン入国日より30日以内滞在のビザが免除され、39カ国の国民に対して観光ビザ申請手続きが簡素化された。また、ウズベキスタン入国ビザ発給手続きの簡素化を目的として、2018年7月1日よりビザ電子申請制度(いわゆる電子ビザ)が施行された(2018年2月3日付大統領令)。 ・ 2019年1月1日よりウズベキスタン国民の出国ビザが廃止される(2017年8月16日付大統領令)。 |

1. 鉱業一般概況

ウズベキスタンの主要金属資源は、金、ウラン、モリブテン、タングステン、銅、鉛、亜鉛、銀、セレンであり、金埋蔵量1,700tで世界第12位、年間生産量102tで第10位、ウランの埋蔵量では世界トップ10に入り生産量は第8位である。

ウズベキスタン鉱物埋蔵量国家バランスによると、同国では、97の貴金属鉱床、38の放射性鉱物鉱床、12の非鉄金属鉱床、235の炭化水素鉱床（ガス及び石油鉱床を含む）、814の各種建材鉱床など、1,931の鉱床が発見されている（2017年1月1日現在）。現在、探査は10鉱種以上に関して行われており、数鉱種だった20年前に比べ探査範囲は拡大傾向にある。近年、探査が開始されたものや強化されているものは、鉄、マンガン、石炭、オイルシェール、一部のレアメタル、レアアース、非在来型の金・ウラン鉱床である。

近年の鉱山開発は、国営企業であるNGMK（Navoi Mining and Metallurgical Combinat）（ウラン、金）及びAGMK（Almalyk Mining and Metallurgical Complex）（銅、亜鉛、鉛、金）による生産設備の近代化や、アジア諸国（日本、中国、韓国）との経済協力によって推進される傾向にある。また、韓国、中国、ロシア等から調査・採掘分野への投資の動きが活発化しており、ウランやレアメタルを中心に協力拡大の可能性が注目されている。

2. 鉱業政策の主な動き

(1) 国家地質鉱物資源委員会への研究施設等の移管等

2017年5月24日、大統領決定第PP-3004号「国家地質鉱物資源委員会における統一地質局設置に関する措置」が採択され、研究生産センター Geology of precious metals and uranium（NGMK傘下）と研究生産センター Non-ferrous metals geology（AGMK傘下）が国家地質鉱物資源委員会（Goscomgeology）の下に置かれることになった。

また、2017年7月24日、大統領決定第PP-3145号「金属鉱床の商業開発分野における研究・設計調査の管理改善に関する措置」が採択され、国家単一企業ウズベキスタン地質工学非鉄金属工業設計調査研究所（O'zGEORANGMETLITI）が、国家建築建設委員会からGoscomgeologyに移管されることになった。同研究所は、NGMK及びAGMK向けに金属鉱物（貴金属、非鉄金属、ウラン等）の採掘・処理関連の予備設計・設計文書作成を行う総合設計企業である。

(2) 国家地質鉱物資源委員会による鉱物資源基盤発展・再生国家プログラム作成手続き

2017年8月27日付内閣決定第675号により、「国家地質鉱物資源委員会による鉱物資源基盤発展・再生国家プログラム作成手続きに関する規定」が承認された。この決定により、Goscomgeologyは以下の計画等を作成することとなる。その際、貴金属・非鉄金属・ウランの地質調査の対象や期間については経済省や財務省、埋蔵量の増加量についてはNGMK（Navoi Mining and Metallurgical Combinat）及びAGMK（Almalyk Mining and Metallurgical Complex）と協議を行った上で策定される。

- ・ 長期（5～15年）プログラム

ウズベキスタン鉱物資源基盤拡大の優先課題に基づき、地下資源地質調査・鉱物資源採掘・選鉱分野の国際市況や先端的科学技術ソリューションを考慮に入れつつ、地質分野の将来的発展の基本的方向性を定める。

- ・ 中期（3年）プログラム

長期プログラムの方向性に定められた方向性に関して、ウズベキスタンの将来的社会経済発展戦略に基づき中期的な行動を具体化する。

- ・ 年次プログラム

地下資源地質調査に関する詳細作業を定める。プロジェクト毎の目標パラメータ（作業の方向性・フェーズ・種類・規模、見込まれる成果、予算と資金源）と実施期間の設定を含む。

(3) 非鉄・貴金属の採取税引き上げ

2018年7月23日、ウズベキスタン大統領決定第PP-3879号「2017年12月29日付ウズベキスタン大統領決定第3454号『2018年度国家予算の主要マクロ経済指標予測』の変更」が署名され、非鉄・貴金属採取に伴う地下資源利用税が引き上げられ、精製銅が8.1%から30%に、金属亜鉛が4%から20%に、金が5%から32%に、銀が8%から32%となった。

3. 主要鉱産物の生産・消費・輸出・輸入動向

(1) 主要金属鉱石生産量

表3-1. ウズベキスタンの主要金属鉱石生産量

| 鉱種 | 2015年 (t) | 2016年 (t) | 2017年 (t) | 対前年 増減比(%) | 世界シェア (%) | ランク |
|--------|--------------|--------------|--------------|---------------|--------------|-----|
| 銅(千t) | 80.4 | 80.4 | 80.4 | 0.0 | 0.4 | 24 |
| 金 | 103.0 | 100.0 | 102.0 | 2.0 | 3.1 | 11 |
| タングステン | 300.0 | 300.0 | 300.0 | 0.0 | 0.3 | 5 |
| ウラン | 2,385.0 | 2,404.0 | 2,400.0 | -0.2 | 4.2 | 7 |
| 銀(千t) | 59.1 | 60.0 | 60.0 | 0.0 | 0.2 | 22 |

出典：World Metal Statistics Yearbook 2018

(2) 主要地金生産量

表3-2. ウズベキスタンの主要金属地金生産量

| 鉱種 | 2015年 (t) | 2016年 (t) | 2017年 (t) | 対前年 増減比(%) | 世界シェア (%) | ランク |
|--------|--------------|--------------|--------------|---------------|--------------|-----|
| 銅(千t) | 100.8 | 100.8 | 100.8 | 0.0 | 0.4 | 26 |
| 亜鉛(千t) | 53.0 | 65.0 | 40.0 | -38.4 | 0.4 | 25 |
| セレン | 31.0 | 30.0 | 30.0 | 0.0 | 0.5 | 17 |
| テルル | 10.0 | 10.0 | 10.0 | -100.0 | 4.5 | 6 |

出典：World Metal Statistics Yearbook 2018

(3) 主要地金消費量

僅少。

(4) 主要金属輸出货量

表 3-3. ウズベキスタンの主要金属輸出货量

| 鉱種 | 2015年 (千 t) | 2016年 (千 t) | 2017年 (千 t) | 対前年 増減比 (%) | 主な輸出相手国 |
|-----|----------------|----------------|----------------|----------------|---------|
| 銅地金 | 60.1 | 51.5 | 47.9 | -7.2 | トルコ、中国 |

出典：International Trade Centre

(5) 主要金属輸入量

表 3-4. ウズベキスタンの主要金属輸入量

| 鉱種 | 2015年 (千 t) | 2016年 (千 t) | 2017年 (千 t) | 対前年 増減比 (%) | 主な輸入相手国 |
|--------------|----------------|----------------|----------------|----------------|--------------|
| 銅鉱石 | 3.2 | 5.9 | 30.1 | 411.5 | カザフスタン |
| 亜鉛鉱石 | 84.5 | 162.5 | 65.8 | -59.5 | カザフスタン |
| 錫地金 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 100 | ロシア、ベルギー |
| マンガン 鉱石 | 1.7 | 2.4 | 1.5 | -37.1 | ジョージア、カザフスタン |
| フェロマンガン | - | - | 0.3 | - | ロシア、リトアニア |
| クロム 鉱石 | 0.05 | - | 0.1 | - | オランダ、リトアニア |
| フェロクロム | 0.2 | 0.4 | 0.6 | 46.2 | キルギス、ロシア |
| フェロチタン | 0.02 | 0.2 | 0.2 | 1.1 | ロシア |
| マグネシウム地金 | 0.1 | 0.5 | 0.1 | -75.0 | ドイツ、中国 |
| タングステン鉱石 (t) | 35.0 | 20.0 | 22.0 | 10.0 | オランダ |
| ジルコニウム鉱石 (t) | 3.0 | - | - | - | カザフスタン |

出典：International Trade Centre

4. 鉱山・製錬所状況

表4-1. 鉱山一覧

| 鉱山 (プロジェクト)名 | 権益所有企業 (権益：%) | 鉱種 | 生産量 | 備考 |
|-----------------|--------------------|----|---------------------|---|
| Muruntau | ウズベキスタン 政府(100) | 金 | 1,900千oz (59.1t) | いずれの鉱山も製錬所併設 生産量： 2011年(Muruntau) 2007年(Kokpatas) 2006年(Zarafshan) 2007年(Zarmitan) |
| Mardzanbulak | | | - | |
| Kokpatas | | | 353千oz (11.0t) | |
| Zarafshan | | | 124千oz (3.9t) | |
| Zarmitan | | | 321.5千oz (10.0t) | |

| | | | | |
|--------------------------|------------------------------------|----------------------------|--------------------------------------|--|
| Almalyk Complex | ウズベキスタン政府(100) | 銅 モリブデン 鉛 亜鉛 金 | 12.0千t - - 19.1千t - | 4鉱山企業、2選鉱場、2製錬所(銅、亜鉛)、3金抽出プラントからなる国営企業 銅・モリブデン鉱山：Kalmakyr, Sary-Cheku 金鉱山：Kauldy, Chadak, Angren, Kairagach 鉛亜鉛鉱山：Uch-Kulach 多金属鉱山：Khandiza 生産は2010年(銅)・2009年(亜鉛)実績 |
| Northern Mining District | ウズベキスタン政府(100) | ウラン | 6.1百万lb (2.8t) 3district 合計 | Navoi市の北約300km 主要鉱山：Uchkuduk, Kendyktyube |
| Central Mining District | | | | Zafarabad (Navoi市近郊) 主要鉱山：Zafarabad, North & South Bukinai, Beshka, Lyavlyakan, Tokhumbet |
| Southern Mining District | | | | Samarkand 主要鉱山：Nurabad, Sabirsay, Ketmench, Shark, Ulus |
| Northern Kanimeh | | | | Navoi市の北西 |
| Dzhantuar | 韓国KORES (50) Goscomgeology (50) | ウラン | 開発中 | 2006年JV設立、共同探査に基本合意 |

出典：各種資料よりJOGMEC作成

(1) NGMK (Navoi Mining and Metallurgical Combinat)

NGMKはウズベキスタンの主要産金企業であり、同国ウラン生産の独占企業である。同社の金年間生産量は60 tを超えている(ウズベキスタンの金総生産量は約90 t)。同社の生産施設には、ナヴォイ(GMZ-1)、ザラフシャン(GMZ-2)、ウチクドゥク(GMZ-3)、ザルミタン(GMZ-4)の4製錬所がある。

NGMKは、2017年3月、Auminza-Amantaiskoe金鉱床(ナヴォイ州タムディ地区)をベースとする第5湿式製錬プラント(GMZ-5)の建設を開始した。このプロジェクト(総額3億9,600万US\$)では年間500万tの鉱石処理が可能となり、2021年に操業開始予定である。

また、NGMKは、2018年初め、同社の主要原料基盤であるMuruntau金鉱山における第5フェーズの開発を開始した。2025年末までに深度900~950mまで開発する予定で、これにより年間採鉱量を30%増の5,000万tに拡大できる。プロジェクト費用(2億3,000万US\$)は、NGMKの自己資金(1億4,000万)とウズベキスタン復興開発基金の融資(9,000万US\$)により賄われる。世界最大の金鉱床の一つであるMuruntau鉱山の露天掘り開発は1967年に開始されている。開発開始以来の採鉱量は15億t以上で、2018年時点で採鉱場(第4フェーズ)の深度は565mである。

加えて、NGMKは、2017~2026年に27件のプロジェクト(総額30億US\$以上)を実施する予定である。これにより、同社の生産能力の30%拡大と3万1,000人の新規雇用創出を目指す。特に、Pistali金鉱床(ナヴォイ州ヌラタ地区)をベースに年間300万tの鉱石処理を行う金生産のための第6湿式製錬プラントを2026年までに中央キジルクムに建設するほか、第2湿式製錬プラントの能力拡大、Muruntau鉱床開発の第5フェーズ開始が予定されている。



| | |
|------------|---|
| 鉄鉱石 ▲ | 1.Tebinbulakskoe; 2.Temirkan; 3.Syurenyata |
| マンガン ▲ | 4.Dautashskoe; 5.Takhtakarachinskoe; 6.Kzylbayrakscoe; 7.Alisay |
| 銅 ▲ | 8.Khandizinskoe; 9.Kalmakyr; 10.Sary-Cheku; 11.Dalynee; 12.Kyzata; 13.Kochbulak |
| モリブデン ▲ | 14.Kalmakyr; 15.Sary-Cheku; 16.Dalynee; 17.Kyzata |
| 鉛・亜鉛 ▲ | 18.Uchkulachskoe; 19.Charmitan; 20.Khandizinskoe; 22.Kurgashinskanskaya |
| タングステン原鉱 ▲ | 23.Koytashskoe; 24.Sautbay; 25.Lyangarskoe; 26.Kara-Tyube; 27.Yakhtonskoe; 28.Ingichinskoe; 29.Kalyta; 30.Sarytau; 31.Sagynkan |
| バナジウム ▲ | 32.Karyer Novy; 33.Rudnoe; 34.Dzhantuar; 35.Koscheka |
| 錫 ▲ | 36.Karnabskoe; 37.Lapasskoe; 38.Changali |
| リチウム ▲ | 39.Dzharchi; 40.Naukinskoe; 41.Shavazsayskoe |
| 水銀 ▲ | 42.Karasuyskoe |
| ストロンチウム ▲ | 43.Sherabadskoe |
| ビスマス ▲ | 44.Kochbulak; 45.Kurgashinskanskaya |
| 金 ▲ | 46.Mardzhanbulak; 47.Murantau; 48.Kokpatas; 49.Amantaytau; 50.Adzhibugut; 51.Sarmich; 52.Taushan; 53.Altynsay; 54.Biran; 55.Balpantau; 56.Turbay; 57.Guzaksay; 58.Charmitan; 59.Guzhumsay; 60.Promezhutochnyy; 61.Karakutan; 62.Kochbulak; 63.Kyzylalmasay; 64.Kauldy; 65.Kayragach; 66.Nizhnekenzhasayskiy |
| 銀 ▲ | 67.Uchkulachskoe; 69.Kurgashinskanskaya; 70.Lashkerekskoe; 71.Okzhetpes; 72.Kosmanachi |
| ウラン ▲ | 73.Severny Bukinay; 74.Beshkak; 75.Karyer Novy; 76.Sugraly; 77.Alendy; 78.Dzhantuar; 79.Meylysay |

図1. 主要鉱山、探鉱プロジェクト位置図

(2) AGMK (Almalyk Mining and Metallurgical Complex)

AGMKは、ウズベキスタンの銅生産独占企業である。

ウズベキスタン大統領は、2017年3月1日、国際的な省エネ・環境基準・要件を満たす最新技術・設備を利用したDalnee鉱床の銅・モリブデン鉱開発と新規採鉱製錬施設の建設によりAGMKの生産力の維持・

拡大を目的として、大統領決定「Dalnee鉱床¹（タシケント州）を基盤とするAGMKの生産力拡大に向けた方策」に署名した。プロジェクトの第一フェーズ（2017～2021年）では、Dalnee鉱床のTsentralny採鉱場開発が予定されており、剥土・採掘作業、生産・輸送・エネルギー・インフラ及び周辺インフラの建設、鉱山・輸送機器その他機器の購入を行う。第二フェーズ（2019～2028年）では、選鉱・製錬施設及び関連補助施設（鉱石年間処理能力2,300万t）の建設と剥土・採掘作業の継続が予定されている。プロジェクト資金（約17億US\$）は、ウズベキスタン復興開発基金、商業銀行による融資とAGMKの自己資金により賄われる。2018年にYoshlik-1銅鉱床の開発も継続する。2018年の投資額は8,670万US\$である。

加えて、ウズベキスタン大統領は、2017年8月15日、大統領決定「AGMKの一層の発展に向けた追加措置」に署名した。同大統領決定に基づき、資源基盤拡大に4億2,000万US\$を追加投資する。資金はタシケント州ピスケント地区のYoshlik II（旧名Kyzata）鉱床の開発に充てられる。Yoshlik II鉱床の鉱石埋蔵量は6,000万t超、マインライフは30年以上である。プロジェクト資金は、ウズベキスタン復興開発基金の融資（3億5,000万US\$）、Ipoteka銀行及びAsaka銀行の融資、AGMKの自己資金により賄われる。

また、AGMKは2018年12月にKyzyl-Alma鉱床（タシケント州）のSamarчук金鉱山の操業を開始する。プロジェクト費用は6,500万US\$で、鉱石年産10万tを予定している。

5. 探鉱状況等

ウズベキスタン大統領は、2017年5月24日、大統領決定第PP-3000号「戦略的に重要な固体鉱物鉱床の地質調査及び開発に対する外国投資誘致促進措置」に署名した。

(1) 当該大統領決定の概要

- ・ 有望区画の地質調査及び具体的鉱床の開発に関し、潜在的な外国投資家との合意（覚書、意向書）はGoscomgeologyにより合意書登録簿に登録される。Goscomgeologyは、合意書登録簿に登録された投資家に対して、対象地下資源区画に関する地質情報を提供し、当該投資家がこれを検討の上、有望区画の地質調査または鉱床開発に関する意思決定を行えるようにする。
- ・ 外国投資家に関心を有する場合、Goscomgeologyは対象地下資源区画の訪問をアレンジし、現有の採鉱・地質条件及びインフラ施設を紹介する。潜在的投資家は、地下資源利用ライセンスを取得することをせずとも、有望区画または鉱床において総重量5kg以下の個別試料を採取し、独立系の国際的試験所における分析のためウズベキスタン国外に持ち出すことができる。
- ・ 潜在的な外国投資家が有望区画の地質調査または鉱床開発を決定した場合、Goscomgeologyとの間で特定投資プロジェクト実施及び秘密保持契約を締結し、対外経済関係投資貿易省の承認を得る。Goscomgeologyは、秘密保持契約に基づき、投資プロジェクトのスコーピングスタディまたはプレFS作成のため、対象地下資源区画に関する地質情報その他情報（座標を含む）を外国投資家に速やかに提供する。また、Goscomgeologyは、特定投資プロジェクト実施契約に基づき、他の潜在的な外国投資家との協力に向けた当該地下資源区画の検討を契約有効期間満了まで停止する。

¹ 2017年8月にDalnee鉱床はYoshlik I鉱床に名称変更された。

(2) 当該決定に基づく具体的なプロジェクト

2017年5月31日、ウズベキスタン共和国内閣決定第328号「外国投資を誘致する地質調査及び商業開発のための戦略的に重要な固体鉱物の有望エリア及び鉱床の選択基準とリストの承認」が採択された。潜在的な外国投資家に提供される戦略的に重要な固体鉱物の有望区画及び鉱床のリストは、

- ・ 年次国際会議「ウズベキスタンの固体鉱物の投資ポテンシャル」で配布される。
- ・ 在外政府機関、政府インターネットサイト、その他公式手段を通じて公表される。
- ・ 地質調査による新規地質情報の取得状況を踏まえ、5年以下の間隔で更新される。

2017年にスタートした、銅・金及びその他金属の地質調査に対する外国投資家誘致計画の一環として、以下のプロジェクトが実施されている。

① Sautbay タングステン鉱床（ナヴォイ州）開発（韓国・Shindong Resources 社）

2013年6月、Goscomgeology と Shindong Resources 社（韓）は、ナヴォイ州 Sautbay タングステン鉱床の探査・開発の合併企業 Uzbekistan-Korea Tungsten 社の設立に調印した。プロジェクト規模は1億5,000万US\$と予想され、年間1,500tの高濃縮タングステン精鉱を生産可能な採鉱選鉱拠点の建設が予定されている。2018年、Sautbay タングステン鉱床開発プロジェクトも継続される。2018～2019年には、建設中の生産施設における原料基盤拡大の取り組みと、プロジェクトのバンカブルFS実施（総額300万US\$）が予定されている。

② 金鉱床エリアの地質調査（タシケント州、サマルカンド州、ナヴォイ州、カラカルパクスタン自治共和国）

Goscomgeology は、2017年、ウズベキスタンの金鉱床エリア10カ所の開発可能性調査に外国企業4社（国際企業 Nordgold 社（本社：モスクワ）、カナダ B2Gold 社、トルコ TUMAD 社、韓国 Shindong Resources 社）を誘致した。Goscomgeology は対象エリアの金の推定埋蔵量を明らかにしていないが、調査の投資総額は約800万US\$となる。契約期間は2年で、その後投資家は自身の調査に基づきプロジェクトの次段階（鉱床開発、採掘・処理施設の建設）について決定しなければならない。

③ 銅及び金鉱床の発見が有望な Kazakhtau 及び Kazakhtau-1 エリア（ナヴォイ州）における地質調査（ロシア・Rosgeoperspektiva 社）

Rosgeoperspektiva 社（露・チェリャビンスク市）は、2018年から、ウズベキスタン・ナヴォイ州において金及び銅の有望エリアの調査を開始した。同社と Goscomgeology は、2017年12月、銅及び金鉱床の発見が有望な Kazakhtau 及び Kazakhtau-1 エリア（ナヴォイ州）における地質調査及び試験採掘の実施協定に調印した。Rosgeoperspektiva 社は2018年秋までに一次資料を検討し、当該有望エリアで空中物理探査と検証ボーリングを実施する。この段階の投資額は約300万US\$となる。可採埋蔵量が発見された場合、同社は採鉱選鉱施設または処理施設（開発条件による）建設の資金調達に向けたバンカブルFSの作成を開始する。

④ **Khurob 及び Aidym-Dzhetymtau (ジザフ州) 及び Aidym-Dzhetymtau (ナヴォイ州) 金鉱床の地質調査 (トルコ・エネルギー天然資源省鉱物資源調査探査総局)**

Goscomeology とトルコ・エネルギー天然資源省鉱物資源調査探査総局は、2018 年 4 月 30 日、両国大統領の会談に基づき、Khurob 及び Aidym-Dzhetymtau 金鉱床、Sarytau 鉱床域の共同地質調査に関する協定に調印した。探査は 2018 年に開始される。Khurob (ジザフ州) 及び Aidym-Dzhetymtau (ナヴォイ州) 金鉱床の埋蔵量は未評価であるが、Sarytau 鉱床域の予測資源量はタングステン 74 万 t、モリブデン 2 万 4,000 t、金 75.2 t である。3 カ所の調査費用の見積額は 3 年間で 500 万 US\$、探査に基づきトルコ側が投資を行う。

⑤ **Yakhton タングステン鉱床 (サマルカンド州) 開発の FS (国際企業 IFG Capital Partners 社)**

Goscomeology と IFG Capital Partners 社は、2018 年 7 月、サマルカンド州 Yakhton タングステン鉱床開発の FS 実施協定に調印した。肯定的な調査結果が出た場合、IFG Capital Partners 社は鉱床の商業開発を組織する。調査第 1 フェーズでは、現存埋蔵量確認のためのボーリングと鉱石処理の最適シナリオ決定のための製錬試験を行い、その後、処理施設を設計する予定である。Yakhton タングステン鉱床の三酸化タングステン埋蔵量は 2 万 t 以上である。

6. 我が国との関係

(1) 日本への輸出

ウズベキスタンの日本への精鉱及び地金輸出量 (グロス量)

データなし

(2) 日本企業による投資状況等

特になし

7. その他のトピックス

特になし。

(2018 年 11 月 1 日 モスクワ事務所 黒須利彦)